

決算説明会

2022年3月期 第1四半期

ミネベアミツミ株式会社

2021年8月4日

吉田です。

本日は、私より2022年3月期第1四半期の連結実績について説明し、その後、代表取締役会長兼社長の貝沼より今期のポイントをご説明します。

1Q連結業績サマリー

売上高、営業利益ともに第1四半期として過去最高

(百万円)	2021年3月期		2022年3月期	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	1Q	4Q	1Q		
売上高	187,463	250,985	248,305	+32.5%	-1.1%
営業利益	3,409	10,692	19,628	5.8倍	+83.6%
税引前利益	3,319	9,928	19,603	5.9倍	+97.5%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	2,216	7,192	14,659	6.6倍	2.0倍
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	5.43	17.64	36.11	6.7倍	2.0倍

為替レート	2021年3月期 1Q	2021年3月期 4Q	2022年3月期 1Q
US\$	107.74円	104.74円	108.99円
ユーロ	118.23円	127.53円	130.84円
タイバーツ	3.34円	3.47円	3.50円
人民元	15.12円	16.17円	16.80円

2021/8/4

2

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

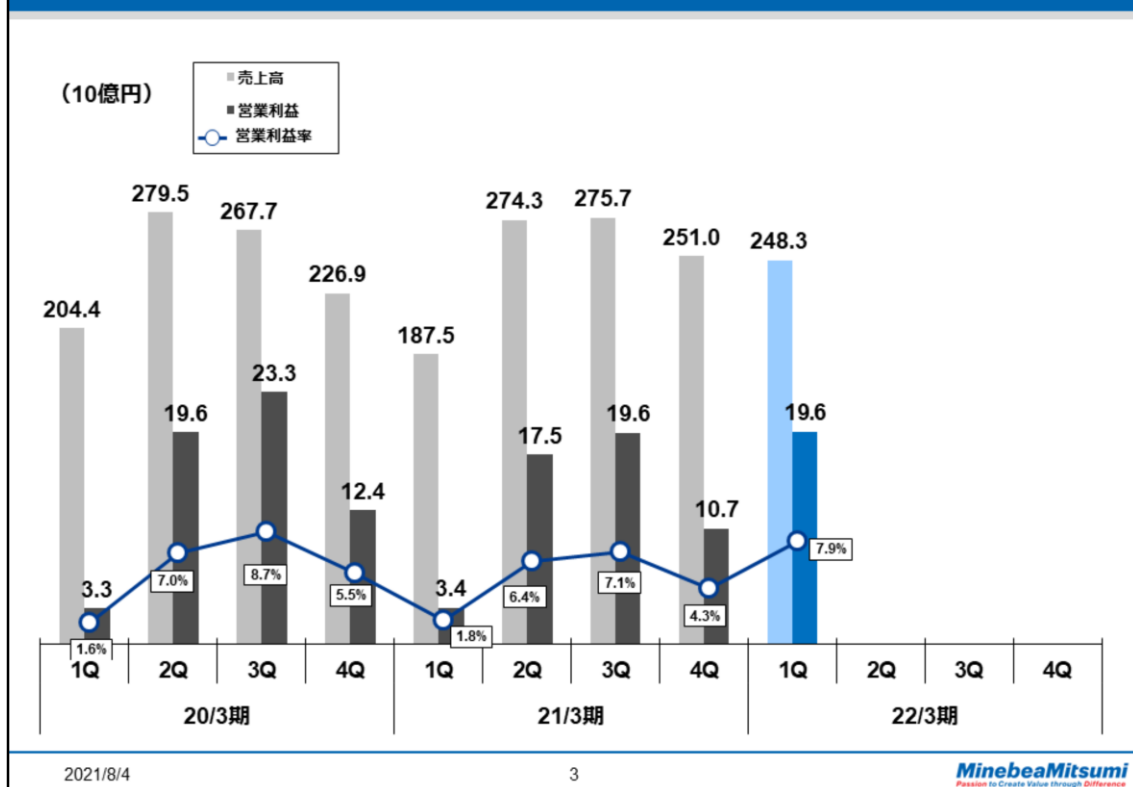
2022年3月期第1四半期の連結業績は、売上高は、前年同期比で32.5%増、前四半期比1.1%減の2,483億500万円となりました。

営業利益は、前年同期比で5.8倍、前四半期比83.6%増の196億2,800万円となりました。親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比で6.6倍、前四半期比で2.0倍の146億5,900万円となりました。

為替の影響は、売上高で前四半期比プラス70億円、前年同期比プラス69億円、営業利益で前四半期比プラス19億円、前年同期比マイナス2億円、との推計です。

なお、エイブリックのPPAに伴い前期の財務諸表を若干遡及して修正をしています。以降のページでは修正後の数値を使用していますのでご注意ください。

売上高、営業利益、営業利益率



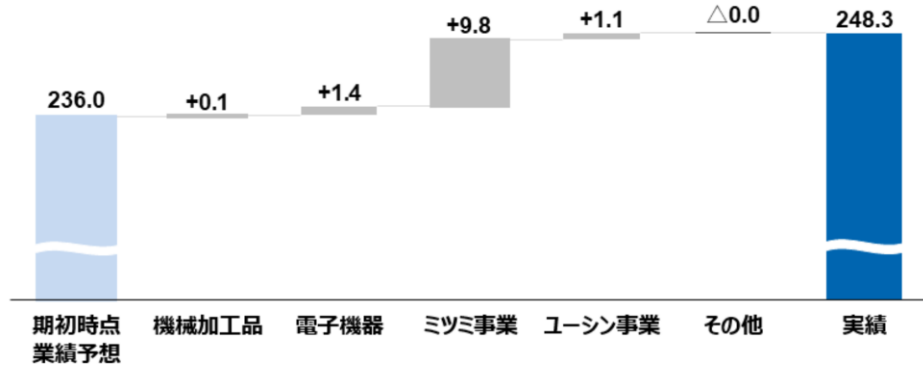
売上高、営業利益、営業利益率の四半期ごとの推移です。

第1四半期の営業利益率は7.9%となりました。これは前年同期比では6.1ポイント上昇、前四半期比では3.6ポイントの上昇となりました。

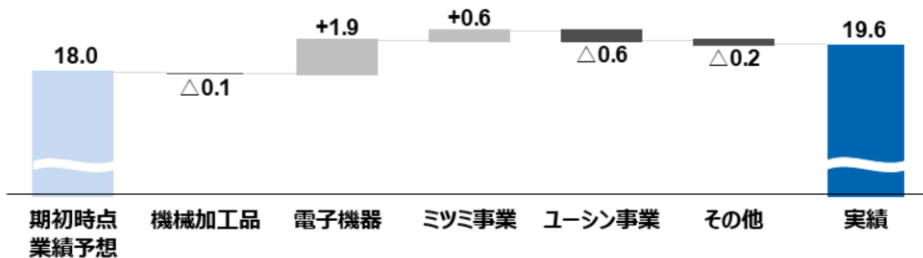
1Q実績 期初予想からの差異

(10億円)

売上高



営業利益



2021/8/4

4

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

これは、第1四半期の売上高、営業利益の実績につきまして、5月の決算発表時の業績予想からの差異についてセグメント別に示したものになります。

売上高においては、機械加工品事業セグメントは、期初は強含んだものの、主に半導体不足に起因する自動車向けの若干の減速があったことから、全体では概ね想定通りとなりました。

電子機器事業はエレクトロデバイスにおいて想定を上回りました。

ミツミ事業においては、機構部品、アナログ半導体、光デバイスにおいて想定を上回りました。

ユーシン事業においては、自動車向けを中心に若干想定を上回りました。

営業利益においては、機械加工品事業セグメントにおいては、概ね想定通りとなりました。

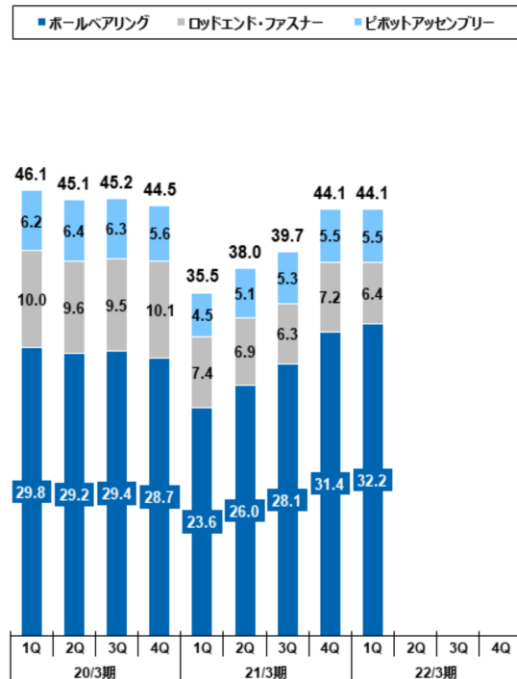
電子機器事業においては、過年度の費用回収があったことなどから想定を上回りました。

ミツミ事業においては、売上の増加に伴って営業利益も想定を上回りました。

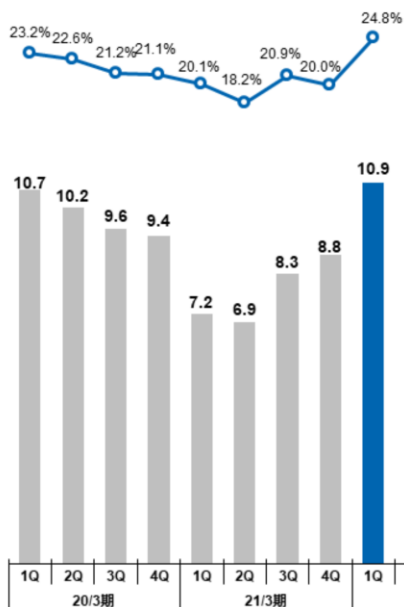
ユーシン事業においては、売上は増加したものの、ユーシン退職金制度の統一に伴う一時的な費用を計上したことなどにより営業利益は想定を下回りました。

機械加工品事業セグメント

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2021/8/4

5

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは機械加工品事業セグメントの四半期ごとの推移です。

左側のグラフが四半期ごとの売上高の推移を、右側のグラフは棒グラフが営業利益、折れ線グラフが営業利益率を表しています。

第1四半期の売上高は441億円、ほぼ前四半期並みとなりました。

ボールベアリングの売上高は322億円、前四半期比で2.5%の増加となりました。外販数量は月平均で2億4,600万個、前四半期比で1.2%増加しました。データセンター向けの数量の伸びがけん引しました。また、航空機向けベアリングにおいては、市場の低迷を受けて引き続き低調な売上高となっています。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は64億円となり、前四半期比で11.1%の減少でした。現時点ではまだ売上高の改善にはつながってはいないものの、航空機の販売においては一部で明るい兆しが見えてきています。

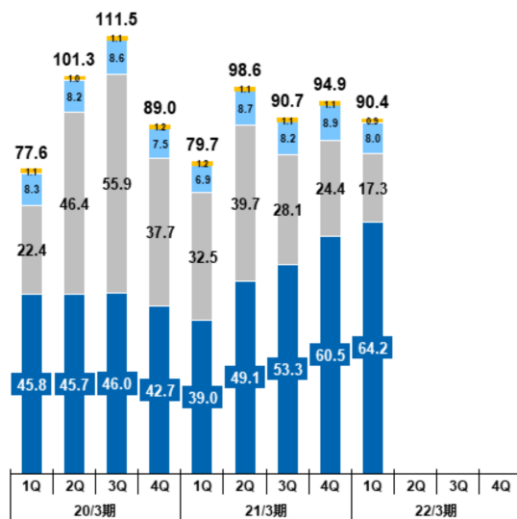
ピボットアッセンブリーは55億円となり、前四半期から横ばいとなりました。

営業利益ですが、当四半期は109億円、営業利益率は24.8%とコロナ前を上回る水準となりました。営業利益は前四半期比23.5%の増加となり、営業利益率では4.8ポイントの上昇となります。製品別では、ボールベアリング、ロッドエンド・ファスナー、ピボットアッセンブリーともに前四半期比で増益となりました。

電子機器事業セグメント

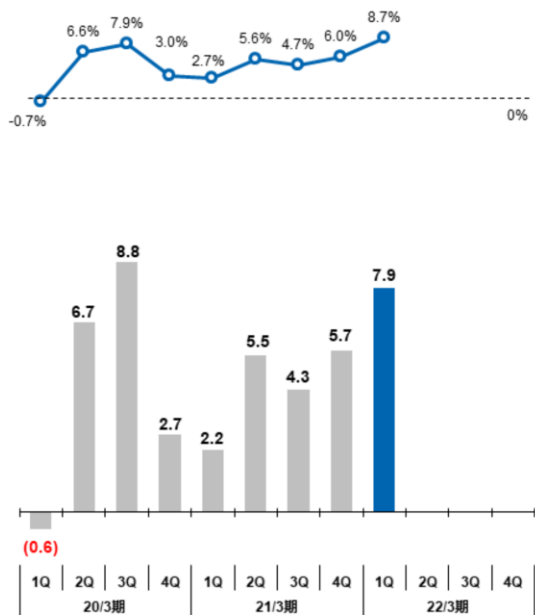
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ● 営業利益率



2021/8/4

6

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは電子機器事業セグメントの四半期毎の推移です。

売上高は904億円、前四半期比で4.7%減となりました。

製品別では、モーターは前四半期比6.1%増の642億円となりました。これは、HDD向けや自動車向けを中心に、すべてのモーターが堅調に推移したことによりです。

エレクトロデバイスは173億円、前四半期比29.0%の減少となりました。これは、2022年3月期より一部事業についてセグメントの移管を実施した影響(約▲41億円。以下、「事業移管の影響」とします)に加え、主要顧客のLEDバックライトで季節的な需要減少があったことによりです。

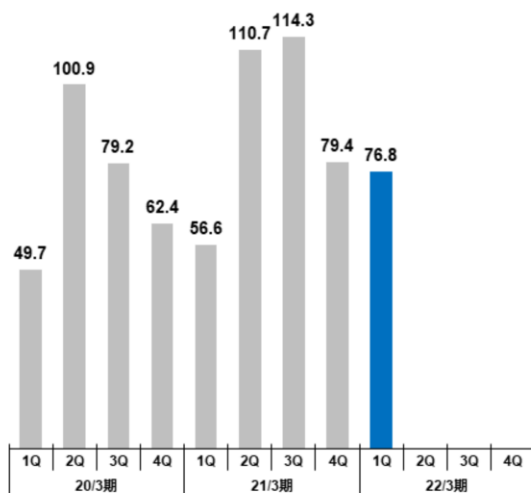
なお、これまでの発表数値のリファレンスのため、2021年3月期以前の実績値はセグメント変更前の数値にて表示、説明しています。この後も同様となりますのでご注意ください。センシングデバイスの売上高は80億円となり、前四半期比で10.2%減少しました。

営業利益は79億円、営業利益率は8.7%となりました。前四半期比では営業利益で39.2%増加、営業利益率は2.7ポイント上昇となりました。

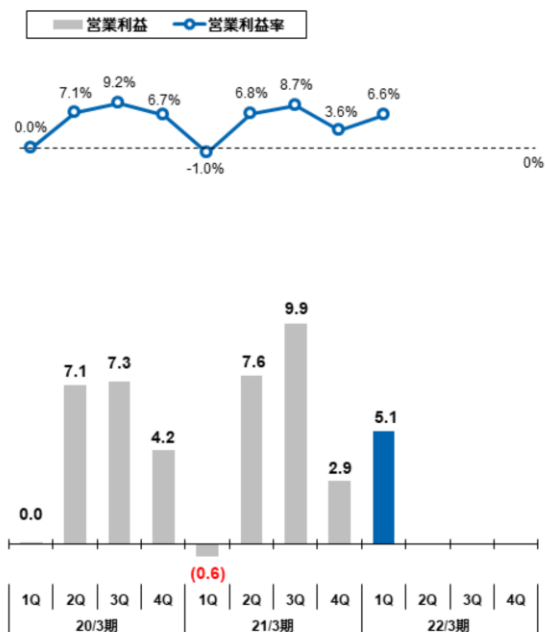
製品別では、センシングデバイスは減益となったものの、エレクトロデバイスは過年度の費用回収があったことなどにより増益、モーターは前四半期並みとなりました。

ミツミ事業セグメント

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2021/8/4

7

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

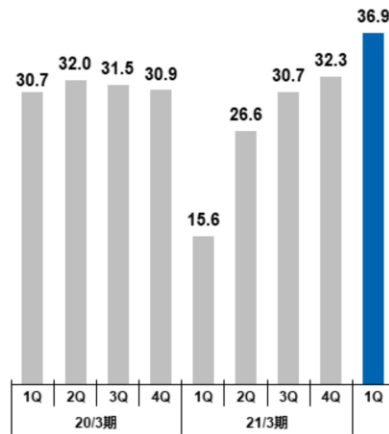
こちらはミツミ事業セグメントの四半期毎の推移です。

売上高は、768億円と前四半期比3.3%の減少でした。堅調な需要に支えられた機構部品やアナログ半導体では増収となりましたが、事業移管の影響(約▲33億円)などによりセグメントとしては減収となりました。

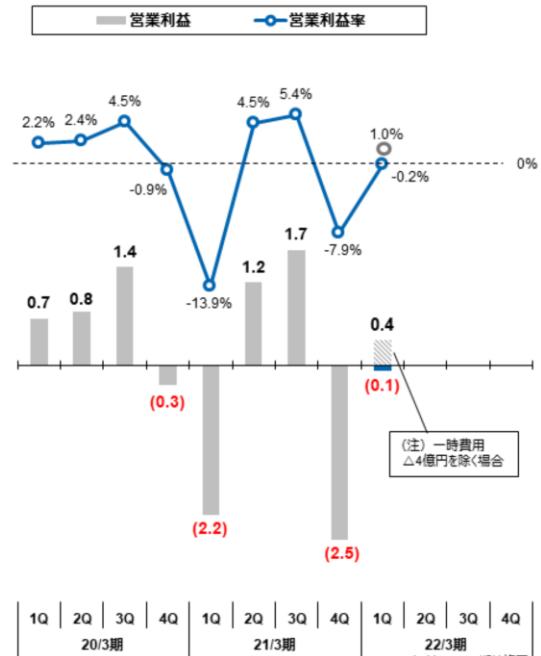
営業利益は51億円となり、営業利益率は6.6%となりました。前四半期比では営業利益で77.7%増、営業利益率で3.0ポイント上昇となりました。これは、前四半期に一時費用を計上していたことに加え、アナログ半導体の収益性がさらに高まったことなどによります。なお、2021年3月期の第1四半期の営業利益がマイナスとなっていますが、これはエイブリックのPPA確定に伴い、各四半期の数値を遡及修正したことによります。

ユーシン事業セグメント

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2021/8/4

8

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

ユーシン事業セグメントの四半期ごとの推移です。

売上高は369億円、前四半期比で14.3%の増加となりました。これは、半導体不足に起因する一部自動車メーカーの生産調整によるマイナス影響があったものの、事業移管の影響(約+74億円)があったことによりセグメントとしては増収となりました。

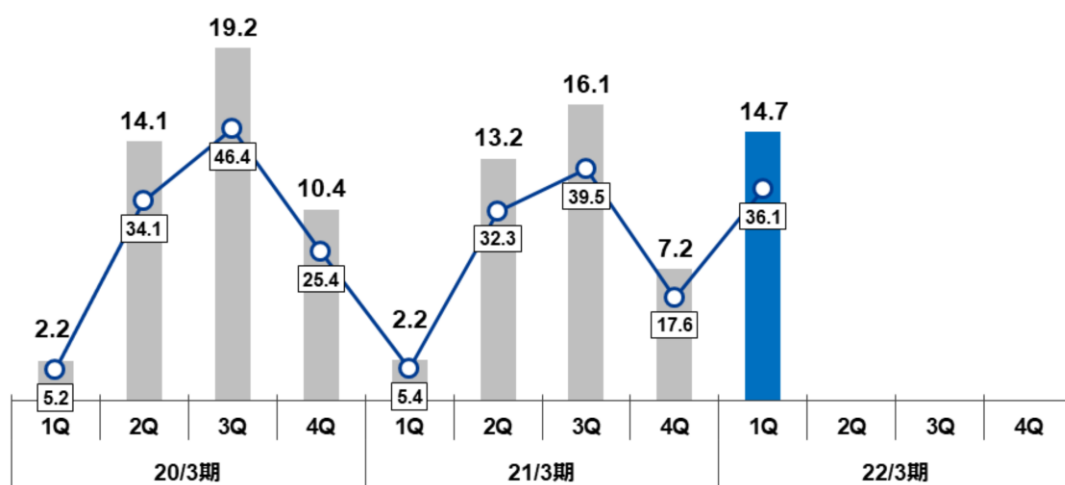
営業損失は1億円、営業利益率は-0.2%となりましたが、ユーシン退職金制度の統一に伴う一時的な費用の影響を除いた場合、営業利益は4億円、営業利益率は1.0%となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益

(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益

○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



2021/8/4

9

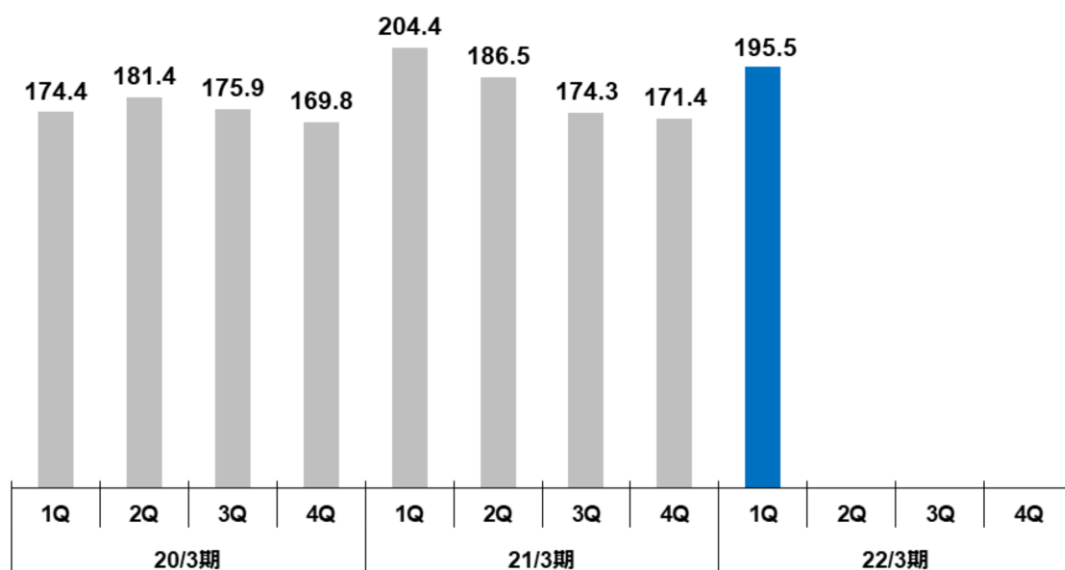
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

このスライドは、親会社の所有者に帰属する四半期利益の推移を棒グラフで、1株当たり四半期利益の推移を折れ線グラフで表しています。

四半期利益は147億円、1株当たりでは36.1円となりました。

棚卸資産

(10億円)



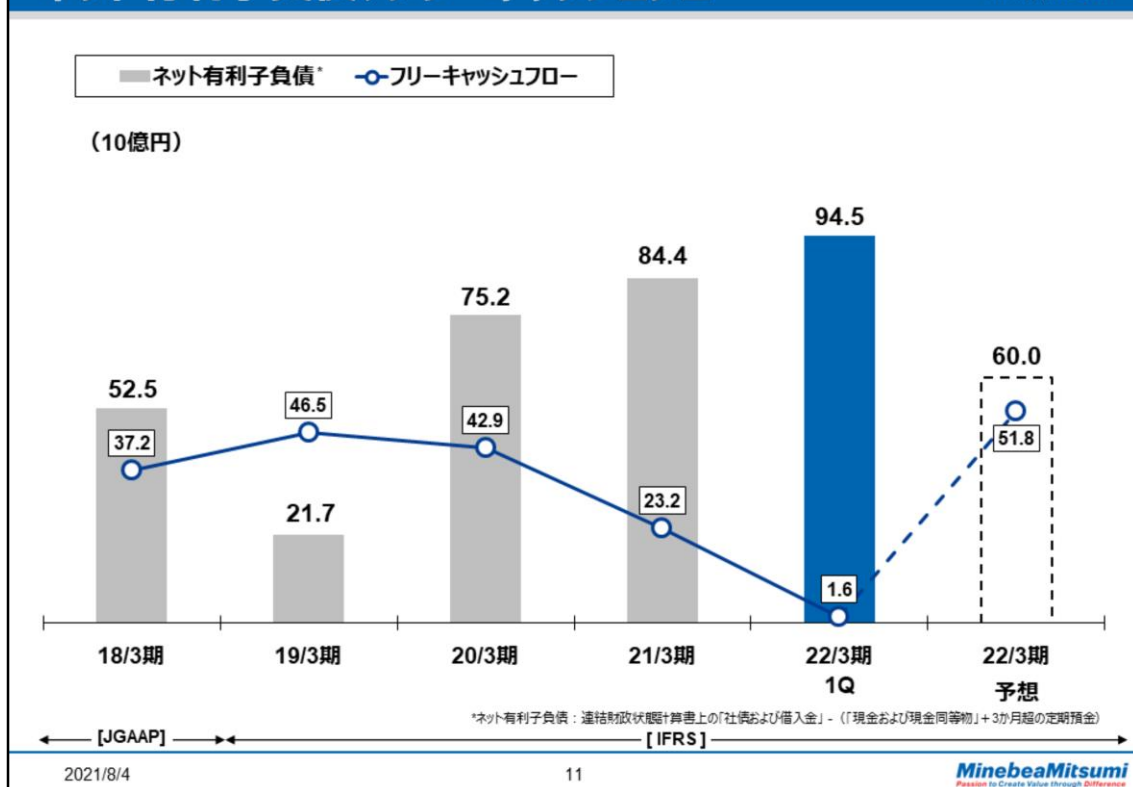
2021/8/4

10

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

続きまして、棚卸資産の四半期ごとの推移です。

第1四半期末は1,955億円となり、3カ月前と比べると241億円の増加となりました。これは、足元で見込まれている販売増のために必要な在庫を戦略的に積み上げたことなどによります。



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移を棒グラフで、フリーキャッシュフローの金額を折れ線グラフで表しています。

第1四半期末におけるネット有利子負債は945億円となり、2021年3月末から102億円増加しました。

業績予想

通期業績予想を上方修正（上半期のみ見直し）

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	988,424	537,000	513,000	1,050,000	+6.2%
営業利益	51,166	45,000	42,000	87,000	+70.0%
税引前利益	49,527	44,500	41,500	86,000	+73.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	38,759	34,500	33,500	68,000	+75.4%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	94.95	84.99	82.53	167.52	+76.4%

為替レート	2021年3月期 通期	2022年3月期 2Q想定	2022年3月期 下半期想定
US\$	105.79円	110.00円	107.00円
ユーロ	123.22円	130.00円	130.00円
タイバーツ	3.40円	3.45円	3.45円
人民元	15.52円	17.00円	16.50円

下半期想定レートは期初
想定から変更していません

2021/8/4

12

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

2022年3月期の通期業績予想につきましては、第1四半期の実績が当初の見込みを上回ったことに加え、第2四半期も引き続きボールベアリング、モーター、アナログ半導体等の堅調な需要が見込まれることから、5月に発表させていただいた業績予想のうち上半期のみについて上方修正させていただきました。

修正の内訳は、売上高について1兆円から1兆500億円、営業利益について800億円から870億円などとなっています。

想定レートについては、第2四半期のみ1ドル110円に修正しました。
なお、下半期については期初想定から変更していません。

セグメント別業績予想

(百万円)	2021年3月期 通期（組替後）	2022年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	988,424	537,000	513,000	1,050,000	+6.2%
機械加工品	157,411	91,000	84,000	175,000	+11.2%
電子機器	345,595	190,000	165,000	355,000	+2.7%
ミツミ事業	352,277	179,000	191,000	370,000	+5.0%
ユーシン事業	132,112	76,600	72,400	149,000	+12.8%
その他	1,029	400	600	1,000	-2.8%
営業利益	51,166	45,000	42,000	87,000	+70.0%
機械加工品	31,223	23,000	20,500	43,500	+39.3%
電子機器	17,685	15,500	10,500	26,000	+47.0%
ミツミ事業	20,458	13,500	16,500	30,000	+46.6%
ユーシン事業	△2,594	1,000	3,500	4,500	-
その他	△1,908	△1,000	△1,000	△2,000	+4.8%
調整額	△13,698	△7,000	△8,000	△15,000	+9.5%

2021/8/4

13

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは、各事業セグメント別の予想です。

全体	● 1Qとして過去最高の売上高、営業利益を達成。(前期比5.8倍) ● 多様化した事業ポートフォリオが、航空機関連および半導体不足に起因する需要減少や原材料価格の高騰等のマイナス要因を打ち消す。 ● 通期業績予想を上方修正。(上半期のみ見直し)
機械加工品	● 機械加工品の1Q営業利益率は予定通りV字復活。 ● ボールベアリングは多目的工場へのさらなる増産投資を決定。 ● 航空機関連事業は一部に明るい兆しあり。
電子機器 ミツミ事業	● モーターを中心に自動車向け新規製品が続々と立ち上がる。 ● アナログ半導体はハード面とソフト面で大幅に強化。 今期は上半期営業利益100億円も射程圏に。 ⇒アクセス製品をしのぎ3番目の槍に番付が上がる可能性！ ● カメラアクチュエータの引き合いは着実に強くなっている。
ユーシン事業	● 高付加価値品へのシフトが進む。(大型案件のファーストベンダーに！) ● 引き続き構造改革を実施。

2021/8/4

14

貝沼です。

それでは私から、本日のポイントについてお話をさせていただきます。

前年同期にはエイブリックのPPAなどがありましたので単純比較は難しいですが、第1四半期の業績は大きく改善できたと思います。資材の高騰、半導体の不足、コロナによるサプライチェーンの稼働低下などさまざまな逆風が吹いておりましたが、為替の条件が良かったこと、各部門が満遍なく好調であったことから、そうした逆風を吹き飛ばすことができたと感じています。

機械加工品は営業利益率を大きく戻し、航空機関連事業が戻れば年間の営業利益で500億円という数字が十分達成できるだろうというところまで来ました。ピボットアセンブリーの売上は減少していますが、ミニチュア・小径ボールベアリングの総需要は非常に旺盛なため新規設備投資を行いたいと思っています。この点は後ほど詳しくお話しさせていただきます。

半導体は引き続き絶好調で、2～3年前には年間の営業利益で100億円を目指すと言っていましたが、今年は半期で100億円を達成してしまいそうな勢いです。

ユーシンでは一つ嬉しいニュースがありました。赤字で「大型案件」と書いていますが、これは超大手自動車メーカー向けの10年間で約1,000億円のドアハンドルビジネスで、当社がファーストベンダーになったものです。これには、世界のドアハンドルメーカーは多分驚愕しているのではないかと思います。当社がユーシン事業を取得した背景として、さまざまなシナジーがあることを確信していたことがありましたが、これから電装化されていくドアハンドルビジネスにおいても、当社のモーター、アナログ半導体、アンテナといったものが寄与していくことができるとしていました。世界展開をしている供給体制や、そうしたオーダーにも応えられる供給力とあわせ、お客様にも十分認識され始めたということ、また事実として新しいビジネスが我々の手に入ったということは、大変うれしく思っています。これはドアハンドルだけの話ではなく、実はCSD(コンパクト・スピンドル・ドライブ)においても、中国を含む大手メーカーのハッチバックなどで当社製品の採用が進んでいます。自動車事業は時間がかかりますが、よい方向に動いているということをご理解いただけるかと思っています。

主なポイント

1 多目的工場の一部をミニチュア・小径ボールベアリング工場へ！

月産365百万個体制を早急に整備する

2 外販は勢いが止まらない

すべての用途向けで旺盛な需要が続く
⇒車載、データセンター、高級家電等

3 増産効果で営業利益率は引き上げへ

ミニチュア・小径ボールベアリング
生産能力の推移
(百万個/月)



多目的工場へのボールベアリング設備導入

- 投資額 建屋 40億円
設備 100億円（第一期分）
- 建設予定地 タイ バンパイン工場
- 稼働開始予定 22年8月頃
- 生産能力 20百万個/月



多目的工場（タイバンパイン工場内）

2021/8/4

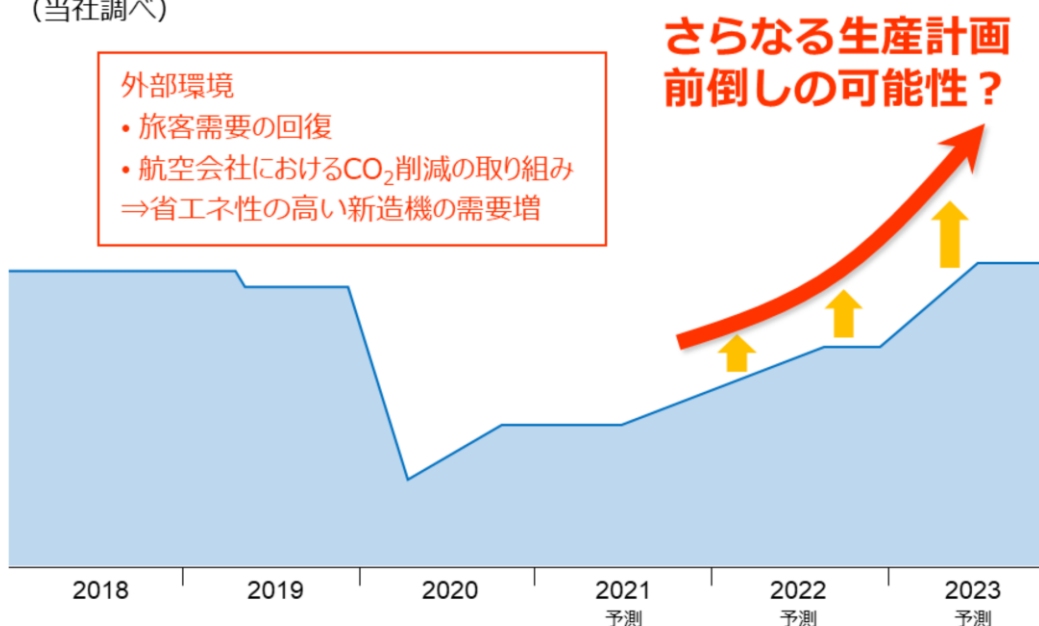
15

今期末にはミニチュア・小径ボールベアリングの生産能力を月産3億4,500万個体制にするということは既にご案内の通りですが、今回それをさらに3億6,500万個まで増やすことを決定しました。このスライドの右上の図にもあります通り、2017年の生産能力は2億5,000万個でした。そこから、私も関与した生産性改善により2億8,500万個に、さらにボトルネックの改善を中心に設備投資を80億円、65億円と実施して3億1,500万個。事業部での生産性改善で3億2,500万個。昨年には100億円の追加投資により3億4,500万個、今回さらに100億円を投資することにより3億6,500万個となります。この背景には、自動車、ファンモーターの需要が非常に強いことがあります。特に、EV化によってミニチュア・小径ボールベアリングの員数が増えていくということはこれまでも何度もご説明差し上げていますが、事実としてこの4、5年で生産能力を1億個以上も増やさないといけないような、大変な需要増となっています。

今回決定した増産は、タイで建設していた多目的工場に生産設備を設置するものですが、一方で当社は2011年にタイでNHT工場を建設、順次設備投資をしておりました。そこからちょうど10年になりますので、これからはその償却負担が軽くなっていきます。従いまして、あわせて200億円の設備投資をしても償却費負担はほとんど変わりません。これは、いわゆる正の循環が始まっているといえると思います。ベアリングの競争力は、その供給力も含め、ますます揺るぎないものになってきていると確信しています。

民間航空機 生産レート実績／予測

(当社調べ)



2021/8/4

16

航空機関連事業は相変わらずですけれども、多少は去年よりもよくなっていると思います。ご存知のとおり、ユナイテッド航空がエアバスから200機購入したこと、エアバス、ボーイングが黒字化したこと、米国内の国内旅客はかなり戻ってきたということなどのニュースもありました。またこれからはカーボンニュートラルに向けた環境配慮型のエンジンや、効率の良い機体などの需要も膨らむと思われます。私は、最近の自動車で起きているような爆発的な需要の回復も、決して考えられないわけではないと思っています。

先週、航空機関連事業の世界の営業・開発・事業担当者を集めた会議があったのですが、そこでは来期の後半からはかなり需要が戻ってくるのではないかという話が多くありました。実は私もそう思っていて、以前から皆様にも個人的にはそう思っていると申し上げていましたが、どうもそういう感じになりそうです。ただし、シングルアイル、つまり廊下が1本で座席が2つに分かれている飛行機が戻りの中心となりそうです。ダブルアイルはしばらく時間がかかるという報告を受けておりますが、シングルアイル中心であっても数が多く売れるようになれば、売上としてはCOVID前と変わらないような状況になってくるのではないかと、ということをご報告しておきたいと思います。

主なポイント

1 車載用モーターは続々と新製品/大型案件が立ち上がる

- EV向けトラクションモーター用レゾルバ
- EV向け二次電池冷却FAN
- EPB用DCモーター
- アクティブ・グリル・アクチュエーター等

2 HDDも高付加価値戦略が奏功

3 半導体事業とのシナジーも模索する

今後爆発的な成長を予定する
車載用モーターの一例

安全性



快適性



車載モーター売上高は
CAGR 20%以上を見込む
(21/3期～25/3期)

環境性能



トラクションモーター
向けレゾルバ



EV用二次電池
冷却FAN



ハルブ用
アクチュエーター



アクティブ・
グリル・アクチュエーター

2021/8/4

17

今期のモーターの売上高は最低でも600億円以上伸ばし、通期では2,600億円から2,700億円を目指しています。30%のアップになりますが、その成長はHDD向けスピンドルモーターに加えて、自動車向けモーターの占める部分が非常に大きくなっています。以前からトレンドとしていろいろなところに入り始めていると申し上げておりましたが、やっとモデルが立ち上がって実際の数字に現れてきていると考えています。モーター事業は今、8本槍戦略の中で2番目の槍になっておりますが、これからも大きく成長していくと考えています。

主なポイント

1 ハード面の体制整備

- ・ 6インチ/8インチの生産体制で生産効率化
- ・ 8インチFabへの100億円超の追加投資により、
全社生産能力は50%UP
→補助金が採択されました

2 ソフト面の体制整備

- ・ 総勢300名による技術・開発体制を確立
- ・ ミックスドシグナル半導体を通じたアナログ半導体の競争力強化
- ・ モーターを含めた相合によるシナジーを加速

3 さらに拡張の余地で 施設的な問題点は解決

アナログ半導体生産体制

前工程

千歳
(6インチ)



高塚
(6インチ)



野洲
(8インチ)
New!!



後工程

セブ
(フィリピン)



秋田



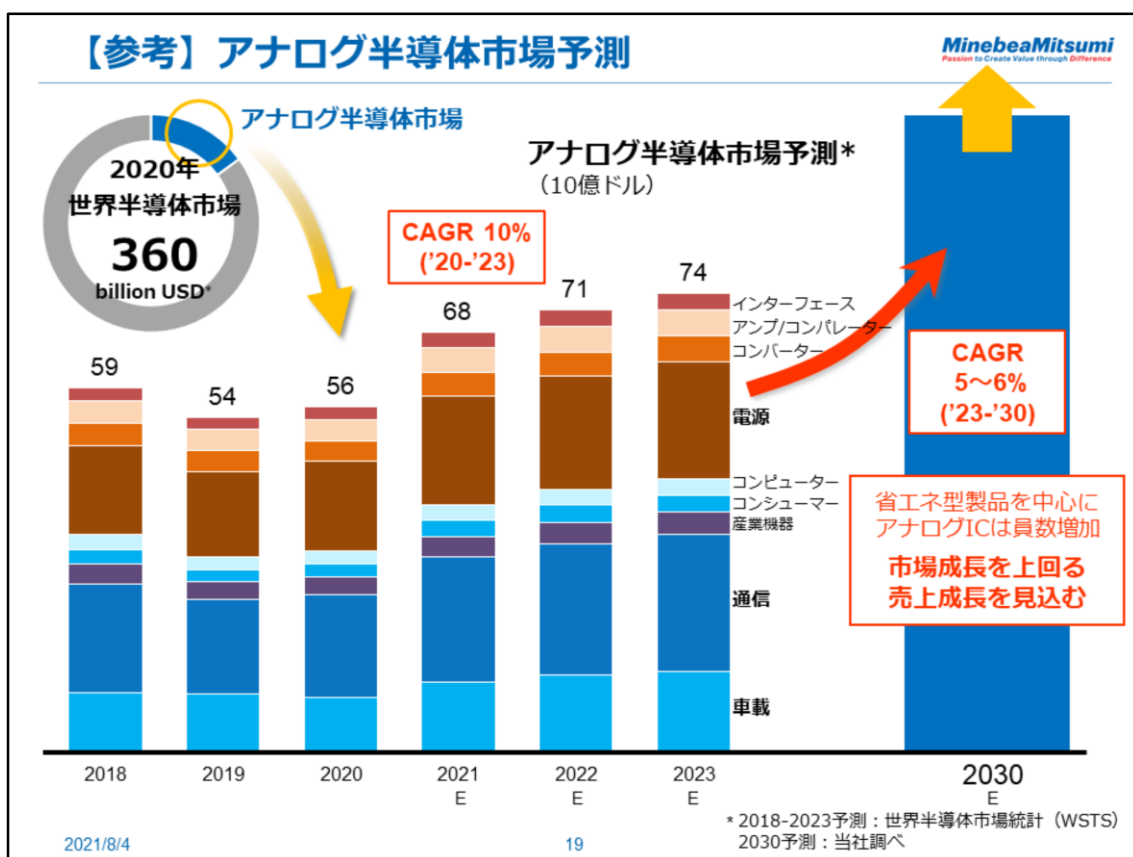
2021/8/4

18

アナログ半導体については、先日セルサイドアナリストの皆様を対象に実施した説明会の資料が当社ウェブサイトに掲載されておりますので、まだご覧になっていない方はぜひ見ていただければと思います。

大雑把に言うと、アナログ半導体は半期で100億円の営業利益を上げる事業に育ったと思います。では通期では200億円かというと、そこまではうまくいきません。先日野洲で取得した工場が10月1日から当社に連結される予定であること、また群馬と岐阜であわせて約60名のエンジニアを採用したことによる費用が、あわせて半期で15億円ぐらいかかる見込みです。一方で、利益貢献は来期の後半以降になると思いますので、それまでは通期の営業利益は180億ぐらいになるかと思います。

1点新しい情報があります。このたび日本政府への申請が承認され、約40億円の補助金をいただけることになりました。当社としては、国策にも従い、早期に、より競争力のある半導体メーカーになることを目指してまいります。



アナログ半導体の売上高は、まずは1,000億円ということを言い続けておりますが、これは世界で10位ぐらいの売上規模になるということになります。スライドにあります通り、半導体市場全体では36兆円という超巨大な市場で、そのうちのアナログ半導体だけでも約7兆円もありますので、それと比べると1,000億円は小さいかもしれません。しかしながら、ベアリングも4兆円ぐらいの市場の中の22ミリ以下のニッチな市場で、同じ1,000億円ぐらいの売上規模で高い利益を上げています。アナログ半導体も同じニッチ戦略で、利益を上げられるところに特化することを徹底できれば、ベアリングと同様のビジネスモデルを誕生させることができると確信しています。そのためにも、まずは一刻も早く野洲工場を利益の源泉にしていくことが重要と認識しています。

主なポイント

1 大手顧客向け新型OISの 立ち上がりは順調

- 今期も順調な立ち上がり
⇒高付加価値モデルの搭載率上昇で、
売上、利益とも前期を大きく上回る
- 引き続きOISの成長に積極的に対応

2 次世代OISを拡販しスマホ用 カメラの技術革新をリードする

3 ゲーム向けは 今期も販売好調と予想

3本槍+1+1で力強く上乗せ

(ベアリング、モーター、アナログ半導体、OIS、ゲーム)



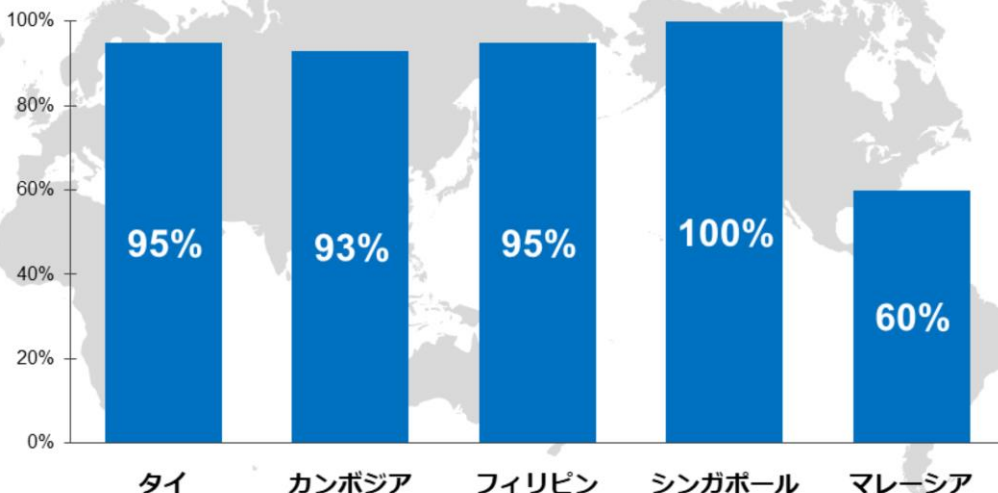
2021/8/4

20

光デバイス事業と機構部品事業はサブコアビジネスという定義になりますが、どちらも生産は非常に順調です。スマホ向けは季節性に伴ってこの第2四半期から大きく収益貢献をしていく予想になっていますし、ゲームはご案内のとおり非常に強含みです。世界的な物流問題や半導体不足による客先での生産調整の影響はありますが、これらの事業は7月以降必ず利益貢献していくと思っています。

**散発的な感染が発生しているものの
全体として通常操業時とほぼ同等の稼働
(1年半で約200回にせまるCEO主催の対策会議を実施)**

東南アジア主要拠点の稼働率の状況 (2021年7月末時点)



2021/8/4

21

東南アジアにおけるCOVID-19の影響について、最近の新聞紙上等で取りざたされていますが、当社のオペレーションは何とか問題なく稼働を続けることができております。もちろん従業員のなかに患者が出ていないわけではありませんが、この1年半で私自らが主催する対策会議を200回以上開催するなど、徹底した感染対策を行ってきています。各国の政府からも非常に高い評価を受けているもので、信頼も置いていただいていると自負しています。

サプライチェーンでも色々な問題がありますが、現在の高い稼働率を維持していくことができるよう、当社として最大の努力を続けていきます。

自社株買い決議（2021年8月4日）

- 取得株式総数：上限 300万株
（発行済株式総数（自己株式を除く）の0.74%）
- 取得株式総額：上限 100億円
- 取得期間：2021年8月5日から2021年10月29日まで
- 理由：株主還元および資本効率の向上と経営環境に応じた
機動的な資本政策を遂行するため

【ご参考】CEOをはじめ業務執行兼務の取締役の報酬決定のKPI

当期利益、売上高成長率、対日経平均株価パフォーマンス、
営業利益率に加え、**本年より時価総額を追加**

2021/8/4

22

株主還元の一環として自社株買いを実施することといたしました。

他社のPER、例えば時価総額5,000億円以上の電気機器セクターのPERを見ると、中央値は22.5倍、平均値は28.8倍となっておりますが、当社のPERは19倍をちょっと切っておりますのでまだ割安だと思っております。

また今年から、指名・報酬委員会で私の賞与査定のKPIに時価総額の絶対額を入れていただきました。従来のように利益を追求するだけでなく、いかにして株主の皆様に対して喜んでいただけるかということ、時価総額の向上についても意識して力を入れていきたいと思っています。

ひとり親支援団体への寄付を実施 ～創立70周年記念事業～

新型コロナウイルスの感染拡大により困難な状況におられる皆様に、心よりお見舞いを申し上げ、このたび寄付を実施させていただきます。

- 目的 高校生の子供を持つひとり親のご家庭への支援
- 使途 認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ様
「高校生応援するよ！プロジェクト」
- まず5,000万円の寄付を実施
⇒当社業績をふまえながら、最大1億円の寄付を予定



しんぐるまざあず・ふぉーらむ様
寄付の実施

創立60周年記念事業 完了のご報告

東日本大震災で両親を失った子供たちへの支援
(2012年8月8日発表)

- 育英基金を設置し、孤児を支援
- 小学1年生～中学3年生（当時）までの138名
- 総額1億円を拠出



東日本大震災育英資金
卒業イベント

ESGトピックスになります。東日本大震災で両親を失った子供たちへの支援に続きまして、シングルマザーにフォーカスした支援を実施します。

新型コロナウイルス ワクチン職域接種の実施完了

- 対象者 接種を希望するミネベアミツミグループの社員・配偶者などの関係者
- 実施日 2021年6月24日以降
- 実施拠点 東京本部、軽井沢工場、浜松工場、藤沢工場、広島工場、千歳事業所
約1万3千人に概ね実施完了

「第3回ASEAN-OSHNET Award」にて カンボジア日系企業として初めて “Excellence Awards” を受賞

- ASEAN-OSHNET Award : ASEAN各国において
労働安全衛生が優れた企業を選定するもの
- “Excellence Awards” : 各国の中で最も優れた
労働安全衛生管理システムを有する企業1社に贈られる



表彰式（リモート画面より抜粋）の様子

ミネベアミツミ公式ウェブサイト「ESG情報インデックス」を設置

環境・社会・ガバナンス（ESG）への対応、サステナビリティへの取り組みについて
GRIスタンダードに沿って整理し、該当する情報へのリンクをまとめました。

弊社ウェブサイトよりご覧ください → <https://www.minebeamitsumi.com/csr/list/data/>

同じくESGトピックスになりますのでご覧ください。

2017年発表のイメージは 23/3期に実現の可能性が見えてきた！

21/3期3Q
決算説明会資料より
(21/2/5発表)

事業毎の内訳 (23/3期)

- 機械加工品 **500**億円
- 電子機器 **300**億円
- ミツミ事業 **300**億円
- ユーシン事業 **100**億円
- 調整額等 **△200**億円

M&Aで上乘せ！

(ご参考) 2017年5月決算説明会
でのイメージ (21/3期)

- 機械加工品 **500**億円
- 電子機器 **300**億円
- ミツミ事業 **200**億円
- M&A **150**億円
- 調整額等 **△150**億円

2021/8/4

25

このスライドは今年2月の第3四半期決算説明会の資料ですが、ここでは営業利益1,000億円
のときのイメージをお示しました。右下の数字は2017年5月の決算説明会のときのもので、
それが2年遅れでこうなりました、と説明しました。

また、ご記憶の方もいらっしゃると思いますが、昨年5月の年度決算説明会では「営業利益の
実力値は810億円」と申し上げました。ようやく市場が回復、為替も戻ってきたことから、皆様
にその実力値をお見せできる状態になったのではないかと思います。ただ、その時と比べると、
まず半導体が大きく成長しています。2年前は通期で100億円の営業利益を目指すと言
っていましたが、それを半期で達成してしまうような勢いが出ています。またベアリング、
モーターも成長していて、いわゆる8本槍のコア事業が飛躍的に成長、収益拡大に寄与して
おります。

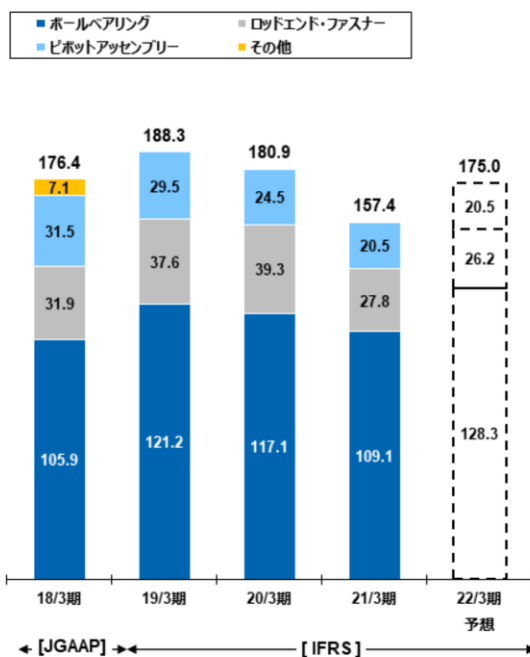
従いまして、この勢いが続けば、営業利益の実力値1,000億円の土台が整ってきたと言える
かと思います。機械加工品は航空機関連事業が戻れば500億円以上、ユーシンで100億円
はきついかもしれませんが、電子機器とミツミ事業は合わせて600億円を超える力がついて
きています。



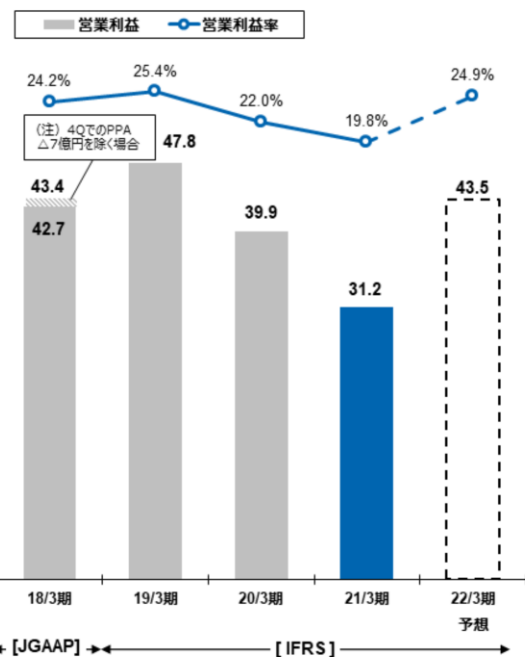
当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

参考資料

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



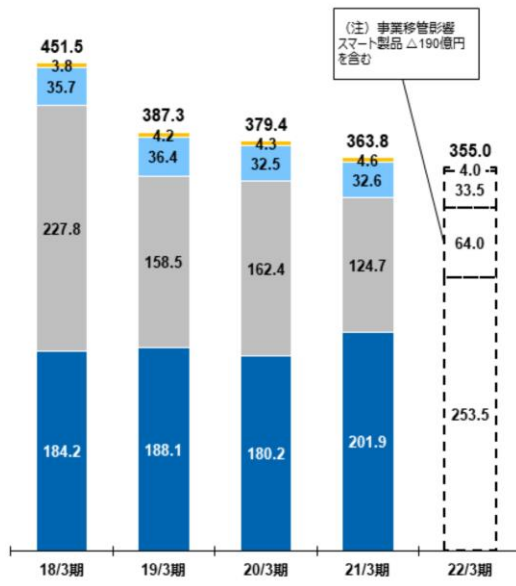
2021/8/4

28

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

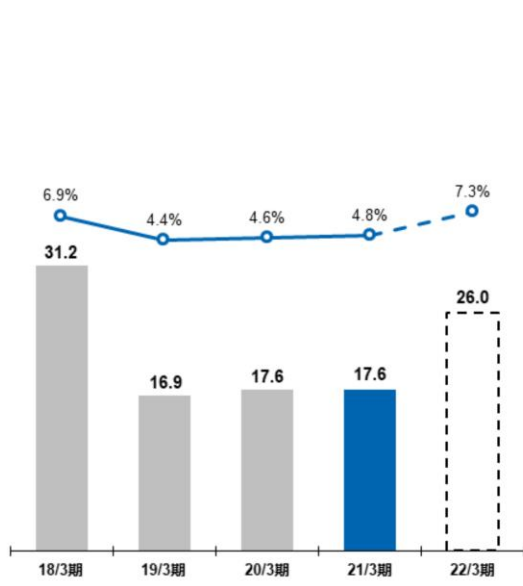
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



営業利益 (10億円)

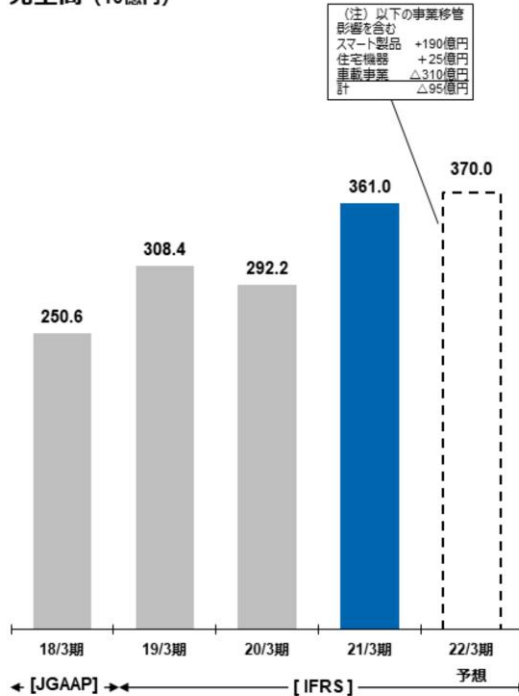
■ 営業利益 ● 営業利益率



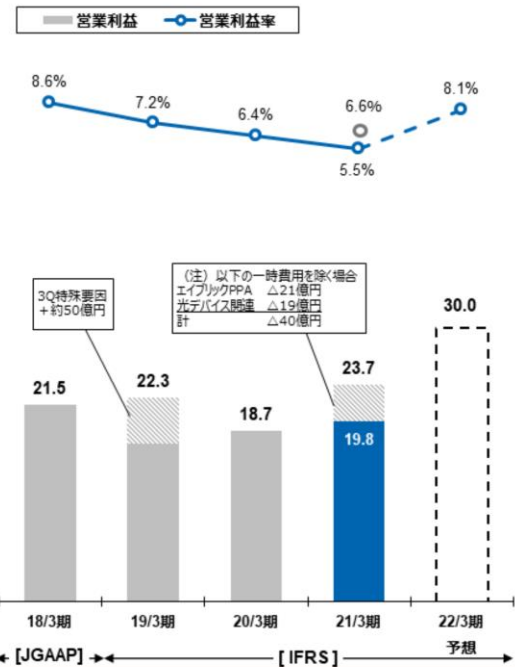
← [JGAAP] → ← [IFRS] → ← [JGAAP] → ← [IFRS] →

2021/8/4 29

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2021/8/4

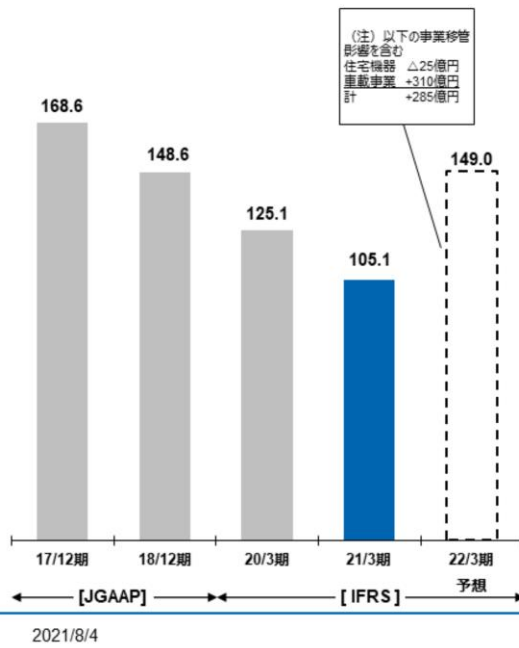
30

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

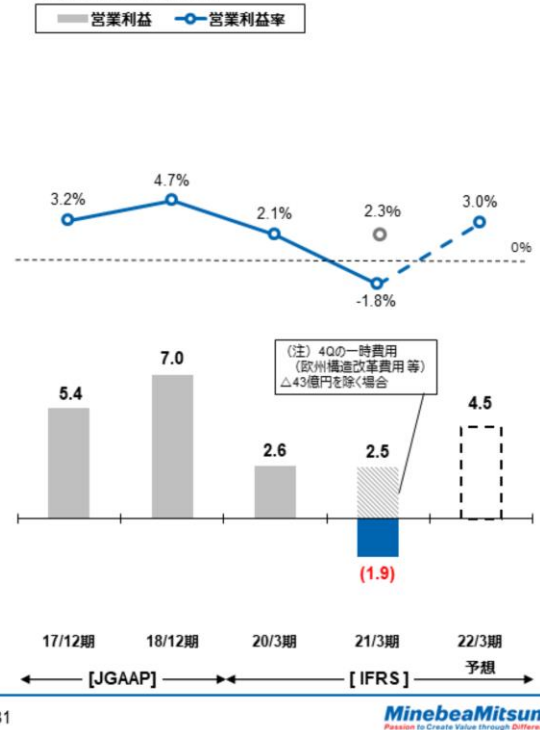
ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期は13ヶ月決算
18/12期以前は経営統合前の参考値でJGAAP
20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

売上高 (10億円)



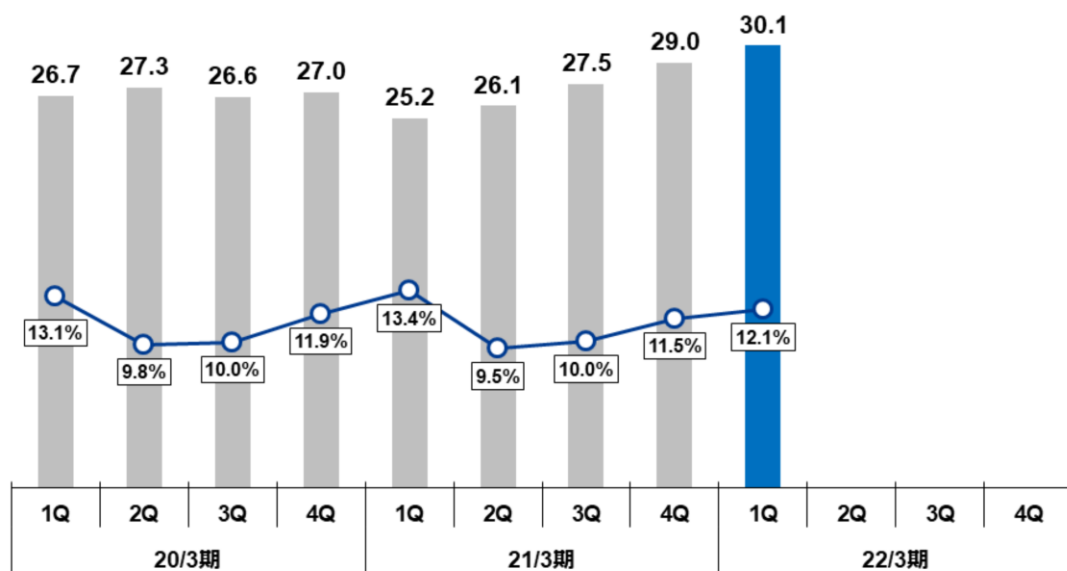
営業利益 (10億円)



販管費

(10億円)

■ 販管費 ● 売上高販管費比率



2021/8/4

32

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

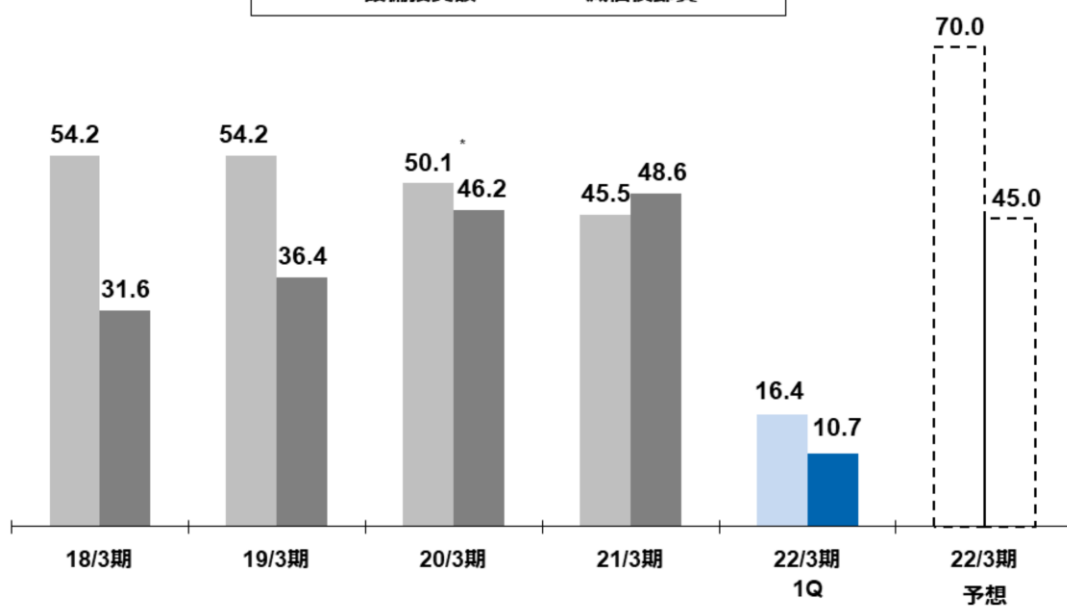
設備投資額・減価償却費

18/3期はJGAAP

(10億円)

■ 設備投資額

■ 減価償却費



*20/3期 設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれておりません。

← [JGAAP]

[IFRS] →

2021/8/4

33

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

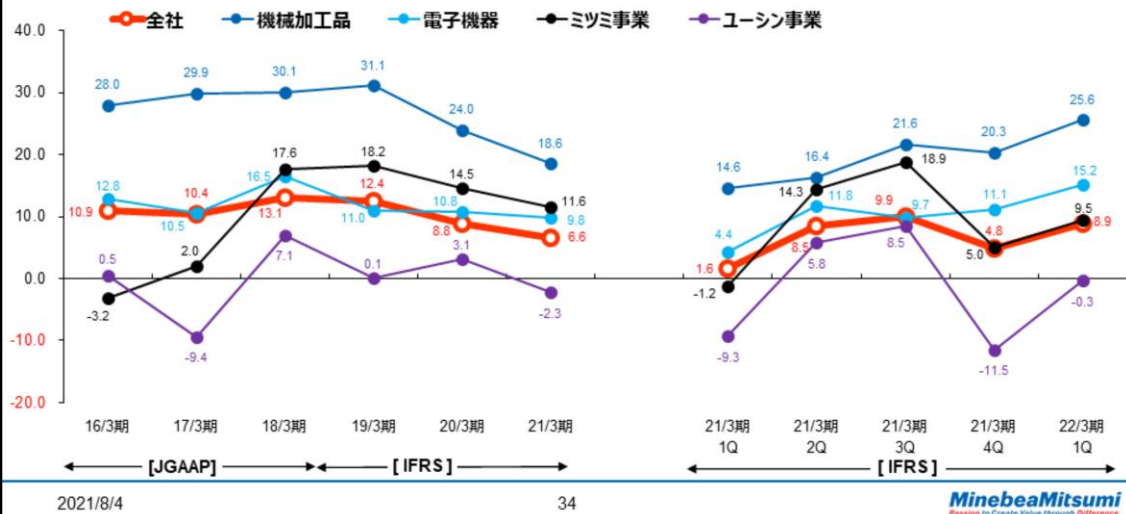
ROIC (投下資本利益率)

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含まない。その他のセグメントは18/3期以前はJGAAP

$$\text{ミネバミツミ版 ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益 + 特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形・売掛金 + 棚卸資産 + 固定資産 - 支払手形・買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出

(%)



MinebeaMitsumi
Pursuing to Create Value through Difference